

# 社会実験の課題と対応

資料-3

分類	取り組みで把握した課題	課題に対する改善内容
マイ防災マップ	現在のハザードマップは1/10,000~1/15,000の縮尺で作成されており、自分の家の場所が特定できないことから、避難に利用しにくい	都市計画区域図等にハザードマップに記載されている浸水範囲や浸水深、土砂災害区域、避難所位置を重ねた図面を自分の家の場所が確認できる縮尺まで拡大し提供
	都市計画区域図等にハザードマップに記載されている浸水範囲や浸水深、土砂災害区域、避難所位置を重ねた図面を自分の家の場所が確認できる縮尺まで拡大し提供。 日常で地図を見ない人は、地図を見ても、自分の家や避難所の場所を把握しにくい	日常生活で利用する郵便局や銀行、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、パチンコ店等、その地区で生活する人にとって目印となるようなまちの中の施設を図面に記載
	第1回のワークショップでは、参加人数23名でマイ防災マップ作成を実施したが、参加者から意見が出難く、意見がまとまり難かった	参加者の住居の場所を踏まえ、3班に分けて、各班7~8名で班毎に話し合い、防災上必要となる情報を図面へ書き込んだ
	自治会と発災時に実際に活動する消防団で互いの災害対策本部の場所が異なっていた	第2回ワークショップ以降は、自治会3役（自治会長、副会長、会計）、各隣保長、消防団等5~10名程度で実施した
	これまで災害時の対応について十分話し合う機会がなかった	消防団長にマイ防災マップ作成への参加を呼びかけ、参加してもらった
	災害時の対応について意識の共有ができていなかった	
	避難時の危険な場所や災害時の状況などについて話はされるが、図面に何を記入するか分からず、実際に図面に書き込む手が動かないため、作業が進まなかった	河川管理者等の行政側がマイ防災マップ作成作業へ積極的に参加し、図面に書き込む情報の順番を住民へ指導し、住民の手が動かない場合は、聞き取った内容を河川管理者等が率先して記載し見本を示した
	約400名の自治会のうち、マイ防災マップ作成に参加した人数が23名と一部の住民となっており、限られた人数での話し合いでは、実際に被災経験した住民の意見や過去からの聞き伝えや知恵が不足している	防災上必要となる情報を書き込んだ図面をデジタルカメラで見やすい大きさに撮影し、自治会全員に回覧し、被災した経験や聞き伝え知っている知恵等について意見を頂くこととした
まち歩きを実施して頂いた意見	まち歩きを一班10名程度の人数で実施したため、パラパラな行動となり、一体感が不足することで、意見や危険な箇所の共有ができなかった	一体感を持つことができるように、まち歩きは1班5~8名で実施（必要に応じて班を編成）
	まち歩きで避難経路を見るだけでは、避難経路の高低差等、避難経路の安全性について住民は認識できない	行政の防災担当としてまち歩きと一緒に参加し、既存のレーザープロファイラーデータ等を活用し避難経路の縦断図等、避難経路の安全性が確認できる情報を提供
配布したマイ防災マップに対して住民の方から頂いた意見	マイ防災マップを活用した防災訓練実施後に行ったアンケート調査で、住民の方から「カラーの色が同色でアイコンの違いが分かりにくい」、「記号がいろいろとたくさんあるので、分かりにくい。」などの意見を頂いた	分かりやすい記号とするため、記号をマークから漢字一文字に変更し、色を赤色からカテゴリー毎に色分け、「浸水・あふれやすい場所」、「地盤が周囲よりも低い場所」を「地盤が周辺よりも低くあふれやすい場所」にまとめ、記号を少なくし漢字を使用した
	マイ防災マップを活用した防災訓練実施後に行ったアンケート調査で、「高齢者には地図が見にくく意味を把握しにくい」、「子どもが少しわかりづらかった。」などの意見があった	「街灯がなく、夜間は真っ暗で危ない場所」から「夜は暗くて見えにくい」などへ、子供や高齢者が理解しやすく、分かりやすい文章に変更し、長い文章にならないようにした

## 社会実験の課題と対応

分類	取り組みで把握した課題	課題に対する改善内容
地区版 防災計画	地区版防災計画として、何をどのように整理すべきか住民には分からないため、議論ができなかった	<p>宍粟市が防災計画の目次案を作成し、住民に提供</p> <p>宍粟市が情報提供し、住民に理解を得る必要のある「避難勧告等の避難情報および住民がとるべき行動」や「避難の心得等」は、宍粟市が整理・提供</p> <p>宍粟市が作成を促進しているわがまち防災ファイル（自主防災運営台帳）の作成を自治会に呼び掛け</p> <p>計画書作成の目的、作成日、避難所情報、災害対策本部情報、話し合いで決定した自主避難の目安（場所、現場写真）の整理を自治会に呼びかけ</p> <p>宍粟市が整理した「避難勧告等の避難情報および住民がとるべき行動」を活用し、宍粟市から発令される避難準備情報、避難勧告、避難指示発令時に住民が望まれる行動について説明し、具体的に自治会内で、誰が誰にどのような情報を発信するか、情報を受けた住民がどのように行動するかを整理するように呼びかけを実施</p> <p>具体的な避難行動の整理にあたって、災害時要援護者の避難支援体制についても整理するように助言を実施</p>
	ハザードマップにも掲載されている行政から発令される避難準備情報、避難勧告、避難指示等の避難に関する情報と住民のとるべき行動が住民に十分認識されていない	<p>ハザードマップに記載されている情報等を活用し、避難勧告等の避難情報および住民がとるべき行動、避難の心得等を宍粟市が整理し、住民に提供</p> <p>宍粟市が整理した「避難勧告等の避難情報および住民がとるべき行動」を活用し、宍粟市から発令される避難準備情報、避難勧告、避難指示発令時に住民が望まれる行動について説明を行い、住民の理解を得る</p>
	マイ防災マップ作成時に、地区に安全な場所がなく、やむをえず1階が浸水する避難所や土砂災害などの危険箇所に指定されている避難所があることや、現在の危険レベルが分かりにくいという意見があった	<p>マイ防災マップより避難所の安全性（浸水や土砂災害の危険性）を確認し、その結果を地区版防災計画に記載した</p> <p>自主避難の目安箇所の位置を示したマイ防災マップと、現地写真、目安線の説明を整理し、地区版防災計画に記載した</p>
	災害時に誰が災害時要援護者の避難支援を行うか自治会内で決まっていない	<p>災害時は隣保長（組長）は、隣保（組）の避難誘導を実施することとなり、災害時要援護者の避難支援を実施できない。災害時要援護者の支援を迅速に行うためには、隣近所の協力が必要なことから、隣保（組）毎で話し合い、災害時要援護者1人に対して2人の支援者を決定</p> <p>自治会長より、毎年隣保（組）毎に防災についての話し合いを行い、隣保（組）毎に災害時要援護者の支援者を決定していくこととした</p>
	自治会内で自治会名簿がなかったので安否確認ができなかった	<p>災害時、避難所で実施する安否確認を行う方法について自治会で話し合いを実施し決定</p> <p>話し合いで、作成した自治会名簿を活用し、隣保長（組長）が安否確認を行い、その結果を自主対策本部に報告することとした</p>
	個人情報の関係で災害時要援護者の氏名、年齢、住所、身体の状態などの情報については、避難支援活動への活用を目的としたものでも、全住民に情報提供することは困難	<p>災害時要援護者情報の取り扱いについて自治会で話し合いを実施</p> <p>災害時要援護者情報は、マイ防災マップに記載せず、地区版防災計画として名簿を整理し、自治会長、隣保長等役員のみ配布・提供することとした</p>
	宍粟市が作成を促進しているわがまち防災ファイル（自主防災運営台帳）のうち、安否確認や災害時要援護者支援に活用できる自治会名簿（氏名、年齢、性別、住所、連絡先等が記載）、災害時要援護者台帳（氏名、年齢、住所、身体の状態、緊急時の連絡先等が記載）が作成されていない	<p>自治会名簿、災害時要援護者台帳を作成</p> <p>自治会名簿に安否確認用の枠を追加、災害時要援護者台帳に支援者の名前を記載する枠を追加</p>
	避難所と隣保（組）の距離位置関係等が異なるため、一般的な避難方法が設定できなかった	<p>避難方法について隣保（組）毎で話し合いを実施し、避難所まで距離がある隣保（組）では避難時の集合場所を決定する等、隣保（組）毎に避難方法を決定</p>
	避難の目安は、災害経験により低い道路や家屋の高さとしており、曲里地区のはん濫注意水位よりも早いタイミングで超過することが想定されるため、自主避難を開始したときには、避難所が開設されていない状況となる	<p>地区版防災計画作成にあたり防災担当として避難所の開設時期等を説明</p>
	地区版防災計画を 活用した防災訓練時に 頂いた意見	防災訓練時、自治会長は、宍粟市との連絡や自治会住民への有線放送（しーたん通信）の実施、安否確認報告の受け答え等で手一杯になり、負担が大きかった
自治会内での情報伝達として、携帯電話に依存しているため、携帯電話が使えない状況で連絡が不通となる懸念される		<p>災害情報を住民に確実に情報伝達するため、複数の手法による情報伝達を事前に自治会で話し合いを実施し、対策を検討する</p>
避難の目安は、災害経験により低い道路や家屋の高さとしており、曲里地区のはん濫注意水位よりも早いタイミングで超過することが想定され、発生頻度が高くなり過ぎることが懸念される		<p>今後複数の洪水を経験し、実態に即した避難の目安となるよう基準の更新を実施していく</p>
その他	自主避難の目安を活用した防災訓練時に、災害時浸水が始まる箇所を避難の目安と決定したが、本当に災害時に活用できる基準となっているか分からないと意見があった	<p>基準の更新に伴いマイ防災マップと地区版防災計画の修正を実施していく</p>
	マイ防災マップおよび地区版防災計画の印刷は自治会による実施が基本 マイ防災マップは自治会掲示板へ掲示する大判図面と全戸に配布する図面、地区版防災計画も全戸に配布する計画書が必要となり、自治会の予算では印刷が難しい	<p>マイ防災マップ、地区版防災計画作成・印刷経費を確保するため、活用できる助成制度の情報を住民へ提供</p> <p>情報提供にあたっては、応募・申請要件の明示も実施</p>

## 社会実験の課題と対応

分類	取り組みで把握した課題	課題に対する改善内容
手近に置かれるハザードマップ	ごみの日カレンダーと一体となったハザードマップ後に実施したアンケート調査で、「ごみの日カレンダーの裏面にハザードマップが記載されており、日常の生活で、ごみの日カレンダーを表にして壁等に貼るので裏面が見えず、マップがあることに気付かなかった」などの意見があった	ごみの日カレンダーへの掲載にあたっては、表面に裏にハザードマップが掲載されていること目立つように記載するなど見易く、利用しやすいハザードマップを作成する。
	配布されたごみの日カレンダーと一体となったハザードマップに対して住民の方から頂いた意見	ごみの日カレンダーへの掲載にあたっては、地図を自治会毎にするなど大きく分かりやすいハザードマップを作成する。
	ごみの日カレンダーと一体となったハザードマップ配布後に実施したアンケート調査で、「地図が小さく、自宅が確認できない」などの意見があった	日常生活で利用する媒体、目に付きやすい場所へのハザードマップの掲載・掲示にあたっては、住民に対し掲載・掲示を周知
	ごみの日カレンダーと一体となったハザードマップ作成時に把握された課題	日常生活でより利用する地区の電話帳、大きなカレンダー、住宅地図、広報誌、回覧板等へハザードマップを掲載し、配布する 日常生活で利用し、目に付きやすい自治会掲示板、公民館、スーパーマーケット、コンビニエンスストア等にハザードマップを掲示する
	ハザードマップの配布にあたっては、浸水深の色の違いが確認できるようにするためにカラー印刷が必要となり、印刷経費の確保が難しい	ごみの日カレンダーを白黒で印刷、浸水が予想される地区であることを明記するために浸水深の表示はせずに、浸水範囲を白黒印刷でも表現できるように着色する等、印刷費用の低減に努める

分類	取り組みで把握した課題	課題に対する改善内容
まるごとまちごとハザードマップの設置	標識の設置場所とすべき日常生活でより目にする場所が分からなかった	行政担当者がまち歩きと一緒に参加し、住民が集まる公民館、役場、国道沿いで横断歩道がある場所、通学路等、より効果的な標識設置場所を助言 効果的な標識設置場所の助言を踏まえ、住民はまち歩きを実施し、効果的な設置場所を決定する
	まるごとまちごとハザードマップの設置後に実施したアンケート調査で、災害時の浸水深、避難所名、避難所までの経路を表示した標識を設置しているが、避難所の電話番号等の避難に必要な情報が不足していると意見があった	外出先でも河川情報および避難所の開設状況が確認できるように、避難場所の電話番号等の避難に必要な情報を表示した標識を作成する
	白の標識に、黒色・青色・緑色の目立たない色で情報が表示されており、標識が目につきにくい	まるごとまちごとハザードマップの設置後に実施したアンケート調査で判明した、「目に付きやすい色を使う」、「標識を大きくする」、「文字を大きくする」、「目立つ色の外枠を入れる」など、事前に住民の方の意見を聞く等により、効果的な標識とするための工夫を行う
	標識や文字が小さく、離れた場所から標識の表示内容が確認できない	
	設置場所の色と標識が同じ色で目立たない	
	河川管理者、市町村以外の管理者の構造物への標識の設置には、申請が必要となる	より効率的に標識を設置するために、住民の方に協力を頂く
まるごとまちごとハザードマップの設置時に把握された課題	夜間の避難を踏まえると、夜間でも表示内容が確認できる標識とすることが必要	街灯の存在状況を考慮し設置場所を決定する 避難場所等、特に重要となる設置場所では、夜間に光る材質の標識を設置する